

東アジア地域におけるサプライチェーンの進展と技術普及

The relationship between the development of supply chains and R&D spillovers in the East Asian regions

福田 佳之（東レ経営研究所）

Yoshiyuki Fukuda (Toray Corporate Business Research, Inc.)

報告要旨

東アジア地域はサプライチェーンが国境を越えての構築が進んでいる地域である。同地域では多国籍企業を中心に工程間分業が進行しており、先進国との中間財や資本財の貿易が盛んとなっている。このことは先進国から技術普及という形で同地域の生産性に影響を及ぼしている可能性が高い。中間財や資本財は最終財を完成させるのに不可欠であり、技術等の知識が両財の中に含まれているため、両財の取引の方が、技術など知識情報が輸出国から輸入国に移転して技術普及しやすいと見られる。そこで、東アジア地域の NIEs・ASEAN4 の業種別全要素生産性と中間財・資本財の取引の関係について実証分析を行った

中間財・資本財の取引のデータについては貿易統計から分類したものだけでなく、アジア国際産業連関表等から抽出したものを使用した。分析結果によると、NIEs・ASEAN4 の、先進国からの輸入を経由する技術普及は、主に中間財の取引によって生じていることが明らかとなった。また、NIEs における技術普及は、中間財取引の経路ではなく、先進国との資本財の取引経路から有意に生じている。なお、対内直接投資など輸入以外の経路を考慮しても、海外との中間財取引経路による技術普及は依然として有意に確認されており、東アジア地域ではサプライチェーンでの取引が技術普及に及ぼしていると言える。